

# 県の適応策の取組事例①

## 山田錦最適作期決定システムの開発

### 酒米・山田錦

- 県の重要特産物で、主に北播磨地域で生産
- 生産量全国第1位、シェア約6割(平成30年度)
- ◎登熟期平均気温の上昇によって出穂・成熟期が早まり、平成10年頃から玄米の充実不足による検査等級・酒造適性が低下



### 山田錦最適作期決定システムの開発(平成25年)

- Excelとインターネットの地図サービスを組み合わせ、ほ場毎の移植日(田植え日)を表示
- 気温を50m区画で推定可能なため、局地気象を反映
- 地域の移植日を一覧できるように、「移植日マップ(移植日の等値線図)」を作成

#### 最適登熟条件の解明

- 温度観測、生育観察、及び気象感応調査を実施
- 「出穂後11~20日の平均気温23℃以下」が最適

反映



システムの入力画面(左図)と移植日マップ(右図)

### 普及啓発

- 県農業改良普及センターを中心に普及啓発を行い、山田錦産地全域に導入

### 成果

- 山田錦の上位等級比率は65.8%(平成21年度)から71.3%(平成29年度)、69.9%(平成30年度)に上昇※
- ※気温以外の条件も品質に影響を与えるため、改善率の全てが本システムの効果ではない
- 水利慣行の問題で、時期を移行できないケースあり



山田錦の玄米(左)と精米(右)